

令和4年度 調布市立富士見台小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標

- ㊦ 深く考える子（知識や技能を身に付け、それらを活用し、問題の解決に向けて追究することができる児童）
- ㊧ 自他を愛する子（自他を尊重し、認め合いながら協力して行動することができる児童）
- ㊨ 自ら鍛える子（自分のめあてを自覚して、工夫しながら粘り強く取り組むことができる児童）

目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像

認め合い, 学び合い, 伸びゆく心と言葉を育てる学校

ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)

本校の児童アンケートから、「授業に主体的に取り組んでいる」という項目への肯定的回答は半数ほどとなっており、多くの児童が学びに対して受動的である。そのため児童個々の自己肯定感を向上させ、失敗を恐れずに安心して物事に挑戦できる環境を作り出す必要がある。どんな意見にも耳を傾けてもらえる安心感のある集団作りと、よりよい考えを練り上げていこうとする学びへの姿勢作りが不可欠である。「知識・技能」を身に付けさせ、「思考力・判断力・表現力」を向上させるための授業改善を行っていくこと、すべての土台として多様性を排除せずに受け入れる心の育成を全教育活動を通して行っていくことが必要である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を大切にし、言語表現の基礎となる「知識及び技能」の指導を確実に行う。 ・読書活動の推進や日常的な言葉遣いの指導を通して、言語感覚を育成し、豊かな言葉を獲得させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が判断して考えをもつことができるような発問を取り入れ、自分の考えをもって対話的活動に参加できるようにする。 ・自力解決の時間を保障し、ノートやiPad等に自分の考えを書かせ、「書くこと」の指導を充実させる。 ・読み聞かせや読書タイム等を生かしながら読書を習慣化し、語彙を増やしたり想像力や表現力を身に付けたりできるようにする。 ・話型、辞書、「声の大きさ」「ハンドサイン」等を積極的に活用する。また、「教員自身が言語環境」という意識をもって指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた資料の読み取り方を習得し、自分の考えを表現する資質・能力を育成する。 (例3年：地図、4年：グラフ、5年：複数のグラフ、6年：複数の資料を関連付けて) 	<ul style="list-style-type: none"> ・データや資料について、原因→事象→人の考えとその背景にあることを考えられるように、関連する資料を複数準備し、提示する。また、立場をかえて考えさせる場を設定し、多面的多角的な考えに触れられるようにする。 ・少人数での話し合いの場を設定し、自分と違う考えを受け止められるようにする。 ・自分の考えをノートに書いたり述べさせたりする際は、必ず根拠となるデータや資料を示すようにする。 ・考えの助けとなるように視覚的な資料の提示方法を工夫する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童にも計算や作図などの基礎的な知識・技能を習得させる。また、十分な理解に達した児童には、発展的な学習内容に挑戦しようとする態度を育成する。 ・問題解決に向けた見通しをもち、考え方の道筋や解決方法を説明する能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数少人数担当教員が中心となり、児童が授業中に取り組める補充や発展的な問題などを準備することで、より多くの練習時間を確保できるようにする。その際、取り組む問題を児童が選択できるようにして、主体的に学ぶ姿勢が育つように工夫する。 ・問題解決の方法やそれを考えた理由などをノートに記述させ、小グループや全体に発表する中で、簡潔かつ的確な方法に高めていく学習活動を積極的に取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な実験操作・観察などを通じて、すすんで課題を解決していく能力を育成する。 ・意見交流や考察の場面において、自他の意見を互いに尊重しつつ、より良い考えを導く能力を育成する。 ・新たな疑問(課題)を見付け出し、既習事項を活用して解決していこうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が実験操作を確実にこなせるよう教材教具を用意する。 ・「課題(問題)→予想→実験→結果(事実)→考察(個人の仮結論)→結論(全体の結論)」の流れを基本とし、個人⇒全体へとまとめる活動の中で、話し合い活動を積極的に取り入れる。 ・身の回りにある事象を導入に取り入れるなど、授業内容と実生活を関連付けながら指導していく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立していくための資質、能力を育成する。 ・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの活動を通して、そこで気付いたことを言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現する取組を設定する。 ・学習過程において、児童自身が既に有している見方・考え方を発揮し、一層活用できるような活動を取り入れる。 ・身近な人々、社会及び自然と関わる環境や、生活科の学びを実生活に生かせるような場の工夫をする。

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや読譜など音楽に対する基本的な知識を高め、演奏に活かすことができる技能を習得させる。 ・自分がイメージする表現を実現させるために、どの技術が必要か選択し、問題解決を自ら図る力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を高めるために、体を使った様々なリズム活動や創作活動を行いスパイラルラーニングにより習得させていく。 ・個々に合った目標を設定させ、アンサンブルなど自分の役割を考えながら演奏する活動を計画的に取り入れていく。また、音楽特有の個人差をお互い教え合う交流活動に生かし、表現につなげる。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や立体に表す表現活動をどの児童も主体的に取り組める技能を習得させる。 ・個々の発想を広げ、課題を解決しながら学習を進めていく態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップを設定し、できることを実感しながら技能を高められるようにする。道具類の使用も学年に応じて計画的に取り組んでいく。 ・個々の発想を広げて取り組む中、小グループでのアイデアの交流などを交え、課題を解決しながら、自分の表現活動がすすめられるようにする。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な家庭や家族、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解や技能を高めさせる。 ・日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な道具や機械を目的に応じて正しく扱えるよう実践的な活動を多く取り入れる。また、地域や保護者の方の授業支援の協力を得て、一人一人の調理や裁縫の技能を確実に高めさせる。 ・安全性や専門性を高めるために、調理や栄養に関する指導は栄養教諭と協力して行う。 ・導入時には必ず自身の生活を見つめ直す場面を設定する。また、学んだことを日常生活で生かすことができるような取組を設定する。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に運動に取り組み、自らの体力や運動能力を高めようとする児童を育成する。 ・体力テストの結果を生かし、投げる運動の能力向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組ませるために、体育の授業に楽しく参加できるように場の設定を工夫する。また、授業で行った内容がどのように体力や運動能力を高めていくのか、児童に説明をしていく。授業内で行った運動が休み時間や放課後にもつながるように指導していく。 ・投げ方指導をしたり、小さなボールを使って投げる運動を取り入れることで、投げる運動能力を養っていく。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語による聞くこと・話すこと・書くこと・読むことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやアクティビティなどを多く取り入れ、主体的に話したり聞いたりする活動を増やしていく。 ・他国の文化と自分たちの生活との共通点、相違点を見付けさせ、多様な価値観があることを意識しながら学習を進める。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観の存在を前提にして他者と対話したり、協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。 ・自己の生き方についての考えを深める学習を通して自らの力で考え、よりよいと判断したり、適切と考えたりする判断力や心情、実践意欲等を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の段階に応じて、話し合いの形態を工夫し、他者の考えと自分の考えを比較させ、物事を多面的・多角的に考えることができるような場を設定する。 ・問題解決的学習を通じて、問題や課題を主体的に解決するために必要な資質を養う。その際に、役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値を実現するための能力を養う。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語による聞くこと・話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやゲームを通して楽しみながら外国語で表現する機会を増やす。 ・ゲームやアクティビティなどの活動を多く取り入れ、主体的に関わることができるよう場の設定をする。